

令和二年度

関わり続ける定住のカタチによる
「結の故郷づくり」に向けた基盤的研究
報告書

令和三年 3 月

関西大学
建築環境デザイン研究室

1. プロジェクトの目的

本プロジェクトは、地域拠点関西大学横町スタジオが今後も継続的な運営を行うための環境を整備することを目的とし、その運営方法の検討・実施を関西大学建築環境デザイン研究室・地元住民と協働して行うものである。

上記の目的の実現に向けて、建築環境デザイン研究室は下記の実施を実施した。

- a. 横町スタジオの運営
- b. 地元住民を交えた地域再編拠点横町スタジオの拠点整備・リノベーションの実施。
- c. ミミズコンポストによる日吉町一区生ゴミ0を目指した社会実験。
- d. 横町スタジオ運営団体「横町編集部」の立ち上げと、ワークショップの実施。
- e. 「わたしが未来の市長」プロジェクトと協働した駐車場を広場にする社会実験の実施。
- f. どじょう工房の活動の実施。
- g. 関西大学まちづくり研究報告会の実施。

2. 業務の概要

業務期間：令和2年4月1日（水）～令和2年3月31日（水）

名称	期間	活動内容
a. 横町スタジオの運営	02.4月-03.3月	・毎朝6時半ラジオ体操の実施。 (02.1224～03.314は休業) ・毎週火・金生ゴミの回収。 ・毎月第二土曜日横町おちゃ会の実施。
b. 地元住民を交えた地域再編拠点横町スタジオの拠点整備・リノベーション。	02.7月-02.10月 (毎週土日)	・中庭・裏庭の植栽。塗装計画。 ・土間部分を地域の図書室として改修。 ・地域のキッチンとして改修。 ・地元産タイルづくりのための素材研究。
c. ミミズコンポストによる日吉町一区生ゴミ0を目指した社会実験。	02.9月-02.10月	・ミミズコンポストの製作・広報活動。 ・日吉町一区ゴミの量の調査。 ・ミミズコンポストによるゴミ処理システムの実装・報告会の実施。

d. 横町スタジオ運営団体「横町編集部」の立ち上げと、ワークショップ。	02.7月-03.03月	・立ち上げに係る広報・報告会の実施。 ・毎月一度の会員募集イベントの実施。 ・横町編集部サークル「マッスル出版」による読書会の実施。 ・横町編集部サークル「マッスル出版」による大野市図書館まつりにて、横町編集部広報誌の出版活動の実施。 ・地元素材を使ったテーブル作りワークショップの実施。 ・横町スタジオ運営検討会の実施。 ・横町スタジオにおける学生の滞在環境の整備（2F エアコン設置・断熱インナーサッシの設置・浄化槽修理）
e. 「わたしが未来の市長」プロジェクトと協働した駐車場を広場にする社会実験。	02.7月-02.8月	・地元高校生のまちづくり提案の実施。 ・福井大学建築学科と協働し、木工ワークショップ・まちあるきゼミの開催。 ・駐車場広場の試験的イベントの企画・運営。
f.どじょう工房の活動	02.11月-03.3月	・別表1 参照。
g.関西大学まちづくり研究報告会の実施	03.3月	・オンライン開催の実施。 ・広報用チラシの作成。

3. 業務の成果

- ・毎朝のラジオ体操に関しては、コロナ禍という社会情勢の中でも、住民主体で実施することができた。「屋外での活動」がポイントであり、スタジオ外部空間のデザイン・改修に重要な要素となった。
- ・リノベーション作業をきっかけに、横町あるいは横町スタジオに関わる住民が増えており、そのメンバーが中心となって、運営団体横町編集部の会員となった。住民が主体的に改修作業に取り組めるような企画「リノベーションリレー」と題し、担当者が次の担当者を指名し、リレー形式で改修を進めるという仕組みが、現場の一体感を作った。
- ・大野市で採れる天然の粘土を調査・分析、大野市在住の陶芸家とコラボし、大野産のタイルを作ることができた。11月から12月にかけて、住民向けのワークショップを横町編集部として企画し、上記リノベーションリレーの改修の仕上げ材として使用する。
- ・ミミズコンポストの生ゴミ処理が10kg/1週間を達成した。住民が、自分の排泄物に注目し、生ゴミだけでなくその他のゴミを自発的に削減するなど、今後も継続することで、さまざまな効果が期待できると考えられる。
- ・横町編集部としての企画を試験的に月二回、計6回行うことができた。今後も同ペースで企画を練り、仲間づくりを進めたい。
- ・「わたしが未来の市長」プロジェクトと協働した駐車場を広場にする社会実験に関しては、地元高校生・福井大学とのコラボが実現できた。
- ・今年度以降、横町編集部として、横町スタジオの継続的な運営ができる体制が整ったこと。

4. 今後の課題・展望

- ・横町スタジオの活動は、過去に使われたモノ（古材・ゴミなど）や地域活動（ラジオ体操・お茶会）の価値を掘り起こし、再利用・循環する空間づくりを目標としていることから、「住民の懐かしい未来」を作っていると言える。全く新しいものではなく、懐かしさを住民や街の記憶からいかにしてアプローチするか、その手法が課題となる。
- ・住民主体の横町スタジオ運営団体設立として、クラウドファンディングで事業を立ち上げるなど、資金集めに挑戦したい。
- ・大野高校・福井大学といった、地元の学校あるいは学生との協働し、人的拡がりを作っていきたい。関西大学の学生だけでなく、地元の学生が横町スタジオに滞在し、研究活動ができる環境を整えていきたい。
- ・横町スタジオを地元住民が主体的にオープンできる環境とすること。

5. 資料集

- ・活動状況の写真



写真1 横町ラジオ体操の様子。



写真2 ラジオ体操「お疲れさん会」の様子。



写真3 横町スタジオラジオ体操の様子。



写真4 横町通り盆踊りをスタジオの裏庭で開催。



写真5 横町お茶会の様子。



写真6 日吉町自治会 BBQ 大会の集合写真。



写真7 日吉町自治会 BBQ 大会の中庭の様子。



写真8 読書会の様子。



写真9 マッスル出版社による地域のお祭り「図書館まつり」の参加。



写真10 自社出版本 製本され、地元の図書館で閲覧可能になる。



写真11 リノベーションリレーの様子。



写真12 横町住民によるミミズコンポストの見学。



写真13 スタジオ裏庭に設置したミミズコンポスト。



写真14 スタジオ裏庭に設置したミミズコンポスト。

生ゴミでシマミミズを育てよう！ ご協力ありがとうございました！

9月4日（金）、9月8日（火）、9月11日（金）、9月15日（火）

9月18日（金）の合計5回、横町スタジオにて生ゴミを集めさせていただきました。

地球に優しい横町に少し近づいたかと思しますので、その結果を下記にお知らせいたします。

ミミズの数

約1,700匹（購入時1,300匹から多少増加）

単純な計算で、**現在1日に850グラム、1週間で5,950グラムの生ゴミを処理することができます。**

（ミミズは1,000匹で1日に約500グラムの生ゴミを処理すると言われています。）

集まった生ゴミの量

①週目 9月4日（金）＝4,200グラム

②週目 9月8日（火）＝3,900グラム 9月11日（金）＝4,300グラム

③週目 9月15日（火）＝4,100グラム 9月18日（金）＝4,400グラム

1週間に約8,000グラムの生ゴミが本調査では集まりました。

ミミズが処理した生ゴミの量

①週目 2,000グラム（ゴミの量の約48％）

②週目 2,000グラム（ゴミの量の約24％）

③週目 5,500グラム（ゴミの量の約64％）

考察

3週目は、現在のミミズ総数1,700匹のゴミ処理能力5,950グラムに対して、5,500グラム（92％）のゴミを処理することができました。

また、ミミズ数は現在増え続けており（目視で大量の卵が確認できます。）今後、数ヶ月の間に、横町の生ゴミ処理能力は飛躍的に向上すると考えられます。



関西大学横町スタジオ 三浦紋人

図15 ミミズコンポストの調査結果報告。

駐 車 場 跡 地 活 用 社 会 実 験 事 業

参加
無料



「愛」「青春」「汗」「疲弊」
あらゆることを持ってきて下さい。
歌って踊って広場を作ろう。

8/7 FRI ▶▶ 8/10 MON @黒原書店

今回の社会実験は、空き駐車場の今後の活用を考えるために、まちの人々と一緒に、四日間で実験的な広場を作ります。7日から9日は駐車場周辺のまち歩き、住民さんへヒアリング、アイデア出し、木工家具の作成をします。10日は、広場お披露目会として、ワークショップや世界の美術の見方講座など、大野の大人たちが様々な企画を準備しています。とくに、デザイン・アート・まちづくり・建築に興味がある高校生のみなさんを大募集します。(定員 10 名程度)



主催：関西大学横町スタジオ
協力：株式会社黒原書店、五番商店街
大野市 私が未来の市長プロジェクト

図 1 6 駐車場を広場にする社会実験の参加者募集チラシ。



写真17 完成したテーブルでご飯を食べる。



写真18 お茶会の様子。



写真19 日詰川で粘土堀り。



写真20 泥祭りの様子。



写真21 スタジオでのドキドキ器づくりワークショップの様子。



写真22 製作した器。

2020年度 横町スタジオリノベーションPJ

—横町スタジオがまちのみんなの居場所になるために—

プロジェクトの目的 一緒にモノをつくる中でひとと場所・ひととひととの関係性を育む

昨年の横町スタジオリノベーションPJでは横町スタジオを誰でも来れるまちの一部にするために道に面した土間の所にキッチンやステージをつくってお茶会などのイベントの時に活用します。今年度のリノベーションPJではスタジオがまちのみんなの居場所になるためにいかにまちのひとをつくる過程で巻き込めるかが大切です。一緒にモノをつくればひとと場所との関係(愛着)が生まれ、みんなできればひととひととのつながりが生まれる。今年はスタジオ改修の活動をまちのひとと一緒にしたいと考えました。

プロジェクトの内容 リノベーションリレー/素材(土)を通した関係づくり・場所づくり

リノベーションリレーとは例えば誰かが壁をペンキで塗ったら次のひとがその壁に置く器を考えるという仕組みです。前のひとのやりたかったことを汲み取ったうえで次のひとがそれに新しく色を重ね、リノベーションの輪が広がっていきスタジオ全体が同時に出来上がっていくイメージです。この仕組みのいいところは何をつくるかの段階でまちのひとを巻き込める所です。ちょうど設計者がたくさんいるイメージです。また改修においてペンキ塗装は子どもから大人まで参加できる方法です。それと同じように「粘土」という素材を使った器づくり・タイルづくりは子どもの粘土遊びの延長で空間をカタチづけることができ、さらに器があることで一緒にごはんを食べるきっかけが生まれるなど器を通したコミュニケーションにも期待できます。リノベーションリレーや土という素材を通してまちのチームと一緒にスタジオの活用や増づくりを考えます。

11月 ワークショップ



横町スタジオの中の道は
通り抜けられる「まちの道」

みんなできったタイルは
「まちの道」になります

1回目 カレーを食べる友達をつくろう!
マイカレーライスPJ×マッスル出版社×陶芸教室(宮前さん)

参加者 マイカレーライスPJの方々、まちのひとたち

内容 絵本の読み聞かせ/小さな本棚づくり/カレーの器づくり/タイルづくり/みんなでごはん

目的 関係づくり

- ・横町スタジオに器があれば、みんなでごはんを食べるきっかけになる
- ・読書による関係の輪を広げていく
- ・みんなできったタイルが「まちの道」を飾る
- ・モノでどうできているの?モノの不思議を考える(マッスル出版社一絵本の読み聞かせ)

教育

エコ

- ・環境を考える (この器は「まちの余りもの」から出来ている)



1000人が一緒にごはんを食べる器
横町スタジオでみんなと一緒にごはんを食べよう
そのために「みんなが使えるまちの器があったらいいな〜」
みんなできった器がみんなで食べるための器に
続いていく活動の輪のイメージ
カレーの器づくり→ごはん会
→器を置く器づくり

2回目 健康陶芸・健康木工WS(仮)ー木工や粘土遊びで少し体を動かすと夜に良く眠れます

企画 マイカレーライスPJ×マッスル出版社×陶芸教室(宮前さん)

参加者 マイカレーライスの方々、まちのひとたち

内容 1回目のカレーの器づくりの続き/タイルづくり+α

目的 健康 木や土に触れる生活が心身の健康につながる(セラピー効果)

(仮)ワークショップ日程

陶芸工程 カタチづくり→素焼き→釉薬つける→本焼き

11/14 カレー器づくり/タイルづくり
絵本の読み聞かせ/小さな本棚づくりWS
お昼ご飯一緒に食べる

11/28 釉薬付ける/タイルづくり
+α

本焼き 年内(優先的に焼いてくれるそう)

お願いしたいこと マイカレーライスPJ内での広報・参加者集め(10人〜12人程度)
釉薬の材料を焼く場所・煙を出しても良い場所
工程を理解してもらって当日もう一人の先生として参加して頂きたい

図24 ワークショップ企画書その1。

④ カレーの「流れ」を考える

「こんなカタチにしたらどんな風にカレーが流れるんだろう」
「この器にどんなカレーの盛り方が出来るんだろう」
「流体」であるカレーを盛る「カタチ」を考える

たとえば、こんなカタチならカレーはどう流れるの?

<渦潮カレー> 上から見ると、横から見ると、



渦の中に沈み込む流れに

<スベリ台カレー> 上から見ると、横から見ると、



重力にしたがってカレーが下に落ちてくる

これだと、カレーはどう流れるの?

<台風目カレー> 上から見ると、



<レンゲカレー> 横から見ると、



みんなの考えた「カレーの流れ」をつなげてみよう



このカレーの流れはスタジオの道の「流れ」になります

④ 転写を利用した(タイル→器→道)のつくり方

0.なんとなくカレーの流れをイメージする



昔の住居跡では柱が立っていた場所が穴になり、空間だった部分が土に埋まるこの反転のことをここでは「転写」と呼ぶ

1.カレーとごはんが入る部分(器の空洞の部分)を作る こんな感じでカレーが入ります



2.ラップをかけてベタベタ粘土を貼っていくーカタチを整えていく



3.裏返して1.でつくったカタチをとるー表面を滑らかにする、飾りをして完成!



器と型(1でつくったカタチ)が出来上がる

4. 1.でつくったカタチをスタジオの道に置くー間を粘土で厚さ5mmぐらいで埋めていく



これがタイルになるー目地には白い漆喰を使用

図25 ワークショップ企画書その2



写真 2 6 大野市役所、関西大学梅田キャンパスと同時開催した報告会。

一年間ありがとうございます。

大野市×関西大学地域連携協定

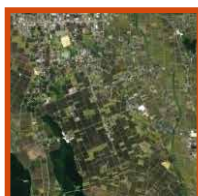


オンライン
視聴もできます

※福井県内にお住いの方は、
当日市役所にお越しいただくこともできます。

——オンライン申し込みについて——

オンライン参加は、関西大学三浦
miura.mondo.0108@gmail.com
宛に、2/26日(金)迄にご連絡ください。
ZOOMのIDを送付いたします。



大野市役所1階市民ホール 2021.02.28(SUN)
14:00~16:00

関西大学まちづくり研究報告会

大野市と関西大学の地域連携による、
空き家を拠点とした大学生と地域のまちづくり、
大野盆地の地下水に関する調査など、
2020年度の研究報告会です。



お車でご越しの際は、城下町南広場駐車場をお使いください。
問い合わせ：大野市総合政策課【64・4824】

写真27 報告会ポスター。



写真 28 スタジオに飾る絵を選んでいる様子。



写真 29 スタジオに飾られた絵：シドニー キムラリサブロー作



写真30 大野の粘土を使ったタイルづくりの様子。



写真31 横町住民とのタイルづくりの様子。



写真３２ 福井大学学生や地元の子供たちと一緒にタイル張りをしている様子。



写真３３ 改修中に見学に来るまちの人。



写真 3 4 本棚の塗装の様子。



写真 3 5 まちから見える本棚。

	粘土堀り	どじょう工房活動		8/3	裏庭に穴を掘る 粘土の発見	横町スタジオ 裏庭	好田	
	粘土の仕込み（はたき土）	どじょう工房活動		8/5	庭でとれた粘土の乾燥 裏庭の倉庫に「どじょう工房」のスペースをつくる ねんど活動スタート	横町スタジオ 裏庭	好田	
	釉薬 素材集め	どじょう工房活動		8/5	地元コーヒー屋さんから コーヒー殻をもらう（週2回） コーヒー殻の天日干し乾燥	横町スタジオ 裏庭	好田	モモンガコーヒー
	粘土の仕込み（はたき土）	どじょう工房活動		8/5~8/11	採取した粘土の乾燥	横町スタジオ 裏庭	好田	
	釉薬素材集め・道具の準備	どじょう工房活動		8/12	大野市の人から七輪もらう 横町の人から粘土の仕込みに使う布をもらう 地元製麺所さんからそば殻をもらう	横町スタジオ	好田	大野市の住民 内田製麺所
	粘土の仕込み（はたき土）	どじょう工房活動		8/13	乾燥した土を細かく砕いてふるいにかける 水を加えて粘土を練る 布で巻いてねかす（8/13~8/17）	横町スタジオ 裏庭	好田	
	釉薬づくり	どじょう工房活動		8/14	釉薬づくり 裏庭でコーヒー殻を灰にする	横町スタジオ 裏庭	好田	
	越前町視察	どじょう工房活動		8/16~8/17	焼き物のまちの視察 陶土がとれる場所は水が濁っていること 粘土の生成の仕方を感じる	福井県越前町	好田	
	粘土の仕込み（すいひ土）	どじょう工房活動		8/18	「すいひ」という方法で粘土の生成を 試す（8/18~8/23）	横町スタジオ 裏庭	好田	
	釉薬づくり	どじょう工房活動		8/19	七輪でコーヒー殻を灰にする 陶器の素焼きを試す 両方ともうまくいかなかった	勝原園地	好田	
	コースターづくり	どじょう工房活動		8/19	はたき土の成形（コースターづくり） 乾燥（8/19~8/23）	勝原園地	好田	
	釉薬づくり	どじょう工房活動		8/21~8/23	七輪でコーヒー殻を灰にする 陶器の素焼きを試す	勝原園地	好田	
	粘土の仕込み（すいひ土）	どじょう工房活動		8/24	すいひした粘土の成形（コースター） 乾燥（8/24~8/29）	横町スタジオ 裏庭	好田	
	粘土の仕込み（すいひ土）	どじょう工房活動		8/27	すいひした粘土をこねる	横町スタジオ 裏庭	好田	
	ワークショップ打合せ	どじょう工房活動		8/28	11月ワークショップについての打ち合わせ	大野市役所	好田	マイカレーライスプロジェクト代表
	窯焼き（七輪）	どじょう工房活動		8/29	コースターの素焼き ドライヤーと七輪で2時間ほど焼く コースター5つ素焼き完了	横町スタジオ 裏庭	好田	
	陶芸教室先生「宮前」と初顔合わせ 粘土掘り（日詰川）	どじょう工房活動		8/30	学びの里めいりんの電気釜の視察 粘土のとれる「日詰川」を見に行く 粘土を掘ってバケツ1杯分持って帰る	学びの里めいりん 日詰川（上丁町）	好田	人材活用登録指導者：宮前さん
	関係者ヒアリング	どじょう工房活動		8/31	「捨てていたものが何か別のモノに化ければ 成果」	モモンガコーヒー	好田	モモンガコーヒー
	粘土の仕込み（日詰川）	どじょう工房活動		9/1	粘土の攪拌、ふるいにかける		好田	
	粘土の成形（器づくり）	どじょう工房活動		9/8	器をつくる 日詰川の粘土が1000度以上に耐えられるのか 実験のためのテストピースをつくる	横町スタジオ	好田	
	窯入れ（めいりん）	どじょう工房活動		9/9	学びの里めいりんの電気釜で素焼き 日詰川の粘土が1000度以上に耐えられるのか実験	横町スタジオ	好田	人材活用登録指導者：宮前さん
	釉薬づくり	どじょう工房活動		9/10	コーヒー殻・そば殻を灰にする	勝原園地	好田	
	釉薬づくり	どじょう工房活動		9/12	まちの中で釉薬集め 神社で燃やしていた落ち葉の灰を頂く	春日神社	好田	春日神社職員
	器に釉薬をつける	どじょう工房活動		9/13	学びの里めいりんの陶芸教室に参加 コーヒー釉薬、そば釉薬、落葉釉薬を器に塗る 酸化焼成と還元焼成に分けて釉薬の色と土の表情の 出方を実験			
	試作品の確認	どじょう工房活動		9/26	還元は全部墨色になった。 酸化焼成でコーヒーは赤、落葉は緑、そばは薄茶色 になる。 大野の土でつくった器で酒を飲む	学びの里めいりん	好田	人材活用登録指導者：宮前さん
	釉薬 素材集め	どじょう工房活動		10/7	大野の田んぼで焼いていたもみ殻の灰を頂く	大野市木本町	好田	大野市の住民
	ワークショップ打ち合わせ	どじょう工房活動		10/8	11月に行う予定の 器づくりワークショップの方向性の打合せ	大野市役所	好田	マイカレーライスプロジェクト代表
	ワークショップ打ち合わせ	どじょう工房活動		10/13	11月に行う予定の 器づくりワークショップの方向性の打合せ	学びの里めいりん	好田	人材活用登録指導者：宮前さん
	大野を知ろう フィールドワーク	どじょう工房活動		10/15	水はり田んぼの話（大野市の住民） 水はり田んぼの話（水のがっこう）	有終会館 水のがっこう	好田	大野市の住民 水のがっこう職員

	ワークショップ打ち合わせ	どじょう工房活動		10/22	11月に行う予定の器づくりワークショップの方向性の打合せ	宮前さん宅	好田	マイカレーライスプロジェクト代表 人材活用登録指導者：宮前さん
	粘土堀り（日詰川）	どじょう工房活動		10/28	日詰川で粘土堀り	日詰川（上丁町）	好田	人材活用登録指導者：宮前さん 三浦
	粘土の仕込み	どじょう工房活動		10/29～11/11	粘土の仕込み	横町スタジオ	好田	
	粘土の仕込み	どじょう工房活動		11/12	白土と大野の土を機械で混ぜる ワークショップ打ち合わせ	学びの里めいりん 横町スタジオ	好田	人材活用登録指導者：宮前さん マイカレーライスプロジェクト代表
	どきドキ器づくりワークショップ	どじょう工房活動		11/14	大野の粘土を使って、器づくりワークショップ 1回目はカタチづくり 横町のひとがつくってくれたごはんを みんなで食べる	横町スタジオ	好田	三浦 人材活用登録指導者：宮前さん 人材活用登録指導者：島田さん マイカレーライスプロジェクト（19人） 横町のひと（3人） まちのひと（1人） 福井大学生（1人） 合計28人
	泥祭り（第一回目）	どじょう工房活動		11/22	泥神様をつくって祈りを捧げる 日詰川で粘土堀り タイルづくり（第一回目）	日詰川 横町スタジオ	好田	三浦、藤本 関西大学生（3人） 福井大学生（1人） まちのひと（1人） 合計8人
	どきドキ器づくりワークショップ 泥祭り（第二回目）	どじょう工房活動		11/28	大野の粘土を使って、器づくりワークショップ 2回目は釉薬付け 窯入れ 第二回泥祭り タイルづくり（第二回目）	学びの里めいりん 横町スタジオ	好田	三浦 人材活用登録指導者：宮前さん 人材活用登録指導者：島田さん マイカレーライスプロジェクト（16人） 横町のひと（2人） 合計22人
	関係者ヒアリング	どじょう工房活動		12/11	人材活用登録指導者：宮前さん、島田さんにワークショップのヒアリングを行う	居酒屋	好田	人材活用登録指導者：宮前さん 人材活用登録指導者：島田さん 合計2人
	関係者ヒアリング	どじょう工房活動		12/26	25年前の粘土の粘土の話を関係者に聞く	喫茶店	好田	